名稱

〔倭名類聚抄十一船〕舟船附艘　方言云、關東謂之舟、音周關西謂之船、音旋、和名布禰、說文云、艘蘇遭反船數也、

〔段注說文解字八下舟〕舟、船也、邶風方之舟之傳曰、舟、船也、古人言舟、漢人言船、毛以今語釋古、故云舟即今之船也、不傳於柏舟、而傳於此者、以見方之爲泭而非船也、古者共鼓貨狄、刳木爲舟、剡木爲楫、以濟不通、郭注山海經曰、世本云、共鼓貨狄作舟、易繫辭曰、刳木爲舟、剡木爲楫、舟楫之利、以濟不通、致遠以利天下、蓋取諸渙、共鼓貨狄、黃帝堯舜間人、貨狄疑即化益、化益即伯益也、考工記、故書舟作周、象形職流切、三部、凡舟之屬皆从舟、𦨶舟也、二篆爲轉注、古言舟、今言船、如古言屨今言鞋、舟之言、周旋也、船之言、淵沿也、从舟㕣聲、各本作鉛、省聲非是、口部有㕣字、水部有沿字、㕣聲今正、食川切、十四部、

〔類聚名義抄三舟〕舟音周、フネ、　船音旋、フネ、　舡俗通音舡　艫舲音零、フネ、　艣艫俗

〔和玉篇中舟〕舟シウ フ子 小ブネ

〔倭訓栞前編二十六不〕ふね　舟船をいふ、羽と音義通り、續紀に飛舟見え、文選にも、戰船を三翼といへり、漕船、刺船、釣船、泊船、繫ぎ船、渡し船、蜑小船、捨小船、波小船、蘆分小舟、棚無小舟などいへり、渡船は、居家必用に見え、蜑家船は、眉公雜字に見え、小船は、正字通に見えたり、顏子家訓に、昔在江南、不信有千人氈帳、及來河北、不信有二萬斛舟と見えたり、○中略舟に幾艘といふは、說文に、船數也といへり、日本紀に、かはらと訓せしはいかゞ、俗に棺を船と稱するは、隋書東夷傳に、及葬置屍船上、陸地牽之、といへるが如し、君は舟、臣は水といふ諺は、荀子に、君者舟也、庶人者水也、水則載舟、水則覆舟と見ゆ、すべて物を載する器を舟といふは、御舟、屋船、覆槽ウケブネ、馬槽ブネ、酒槽、餅槽、抄紙槽カミスキブネ、湯槽の類、是也、字彙、尊下臺曰舟、如今之承盤、と見えたり、

〔八雲御抄三下枝葉〕雜物部附調度

船　いは國見するなどいへり天神駕給歟萬、ひさかたのあまのさくめがいは舟のとめしたかつはあせにけるかも、と云り、　つり　あま　ほ　いさり　とも　から　おきつ　はし　かたはれ　千　も、　しば　たかせ川舟也　夜　泊　うき　かは　海舟　つま向七夕　たな、しを小舟也　あけのそを裝束舟歟　のぼり　まつら　いな河もがみ　さほ萬　ひ萬、ゆたにとよめり、　わたし　鹽　ひき萬　はや　さ、　すて　は